

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 op.30 (約40分) ★

Sergei Rachmaninoff: Piano Concerto No.3 in D minor, op.30

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・タント

Allegro ma non tanto

第2楽章 インテルメッツォ：アダージョ

Intermezzo : Adagio

第3楽章 フィナーレ：アッラ・ブレーヴェ

Finale : Alla breve

………… 休 憩 (20分) Intermission ……………

チャイコフスキー：交響曲 第5番 ホ短調 op.64 (約45分)

Pyotr Il'yich Tchaikovsky: Symphony No.5 in E minor, op.64

第1楽章 アンダンテ－アレグロ・コン・アニマ

Andante – Allegro con anima

第2楽章 アンダンテ・カンタービレ・コン・アルクーナ・リチェンツァ

Andante cantabile con alcuna licenza

第3楽章 ワルツ：アレグロ・モデラート

Valse : Allegro moderato

第4楽章 フィナーレ：アンダンテ・マエストーソ – アレグロ・ヴィヴァーチェ

Finale : Andante maestoso – Allegro vivace

指揮：原田 慶太楼

Keitaro Harada, Conductor

ピアノ：上原 彩子 (★ 演奏曲)

Ayako Uehara, Piano

管弦楽：兵庫芸術文化センター管弦楽団

Hyogo Performing Arts Center Orchestra

※演奏時間は目安です。前後する可能性がありますので、予めご了承ください。

※この公演の録音・録画・撮影および、そのための機材の会場内への持ち込みは固く禁じられています。
※音や警報音の鳴る機器(補聴器、アラーム付時計等)をお持ちの方は、上演中音が鳴らないようご注意願います。
※客席内では携帯電話は使用できませんので、電源をお切りください。
※演奏中の会話、客席内でのご飲食はご遠慮ください。

ロシアの音楽に特徴的な要素を少し乱暴にまとめると、息の長い旋律と、感情が振れる幅の広さという二点に換言できます。本日の名曲コンサートで奏でられる2曲にも、そうした要素が満載です。指揮の原田慶太楼とピアノの上原彩子とも、兵庫芸術文化センター管弦楽団とは初共演です。世代を隔てたチャイコフスキーとラフマニノフという作曲家が綴った音の万華鏡に身を浸して、極上のひとときをお過ごしください。

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 op.30

セルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)は、19世紀末から20世紀前半に活躍をしたロシア出身のピアニストで作曲家です。今の言葉では「コンポーザー＝ピアニスト」となることでしょう。ロシア革命以後は祖国を離れ、1918年以降はアメリカを拠点に、ヴィルトゥオーソ(名人芸)・ピアニストとして、大陸を股にかけての大活躍をしました。バッハから、古典派、ロマン派と幅広いレパートリーを誇ります。その一方で自作には技法を凝らしたフレーズが重ねられて、ロシアの音楽の悠々たる響きを持ちながら、ピアニストとしての腕前を存分に発揮できる音楽となっています。

《ピアノ協奏曲第3番》は、1909年の秋に行われたラフマニノフにとって初のアメリカ演奏旅行で弾くために、その直前の夏に作曲されました。書き上げた日付は9月23日と書き込まれていて、10月15日にアメリカへと発っています。ラフマニノフは船中で音の出ない「機械仕掛けのおもちゃ」と呼んでいたピアノで、独奏部分の練習を重ねたとされます。1909年11月28日と30日にニューヨークにて、作曲者自身によるピアノとウォルター・ダムロッシュ指揮のニューヨーク交響楽団の定期演奏会で初演されました。また

翌1910年1月16日に、ニューヨーク・フィルハーモニックの定期演奏会で、当時常任指揮者を務めていたグスタフ・マーラーの指揮で再演されました。こちら作曲者自身がピアノ独奏を務めています、マーラーは独奏者＝作曲者そっちのけで、演奏至難なオーケストラパートの練習に躍起になっていたと、ラフマニノフ自身が述懐しています。自作自演の録音では、ユージン・オーマンディ指揮のフィラデルフィア管弦楽団と共演して1939、40年に録音した演奏が知られていて、大幅なカットがあるものの、往年の妙技を聴くことができます。実は同じラフマニノフでも《ピアノ協奏曲第2番》と比較しても、独奏部分が相当な高い難度で書かれていて、ラフマニノフが初のアメリカツアーにかけた並々ならぬ意気込みが感じられます。

3つの楽章で構成。〈第1楽章〉は2小節間の導入に続き、独奏ピアノがなだらかな主題を奏でて始まります。平穏なのは最初だけ。テーマがオーケストラに移ると、独奏ピアノは縦横無尽に細かなパッセージを応酬します。緩急自在にラフマニノフらしい甘い響きも盛り込まれて、全体的にはスピード感にあふれた音楽になりました。〈第2楽章〉は変奏曲の要素を盛り込んで書かれています。緩徐楽章のゆったりとしたテンポの中で、やはり独奏ピアノには華麗なテクニックでの演奏が求められていて、その鮮やかな切れ味に唸られること必至。劇的な移行部を経て切れ目なしに続けられる〈第3楽章〉は行進曲風の歩みの中で、第1楽章のテーマが使われて統一性が打ち出されます。ロマンティックな中に、エネルギーが強く凝縮されたフィナーレとなりました。

楽器編成

独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、チューバ、ティンパニ、大太鼓、シンバル、スネアドラム、弦楽5部

チャイコフスキー：交響曲 第5番 ホ短調 op.64

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー(1840-1893)は19世紀後半のロシアで活躍した作曲家。当時のロシアで彼の音楽は「西欧的で洗練されている」とされていました。意外にも思えますが、それだからこそ、チャイコフスキーの音楽は広く普遍性を獲得して、世界中で演奏されるようになったとも言えるのです。ラフマニノフもチャイコフスキーの音楽に深い尊敬の念を抱いていました。

番号が付いたものが6曲残された交響曲の中で、第4番、第5番、第6番の3曲はあらゆるオーケストラの標準レパートリーとして、繰り返し何度も演奏されてきました。その3曲の中でも最も演奏回数の多いのが、この《第5番》だと言えるでしょう。輝かしい音色が、どっしりとした響きの構築の中で交わされます。チャイコフスキーの作品の中でも、何かを追い求める強い憧憬の気持ちを特に強く感じる音楽です。

1888年(48歳)の5月から8月にかけて作曲。ただし、最新の研究ではある程度の期間をかけて構想が進められたことが、分かってきています。1888年11月5日にサンクトペテルブルクで作曲者の指揮で初演されました。どうやらチャイコフスキー自身は出来栄えに不満があったようで、「大げさで、作り物のようだ」と、パトロンであったメック夫人に手紙を書き送っています。1876年に編曲の依頼をきっかけとして、文通相手、そして資金提供のパトロンとなったのが、ナジェージダ・フォン・メック夫人でした。彼女は裕福な亡き男爵の妻で、チャイコフスキーの大ファンでしたが、不思議なことに、いくら親密になっても二人は決して実際に会うことはなく、手紙のやり取りだけの関係が続いたそうです。

4つの楽章で構成されます。〈第1楽章〉は重々しい序奏で始まります。ここであらわれる引きずるようなクラリネットによるメロディが「運命の動機」と呼ばれるもので、全楽章で様々な形となって登場します。主部

に入って音楽が前に進み始めます。がっちりとした響きで組み立てられていて、その中で燃えさかる強い力が、より揺るぎないものとしてあらわれます。〈第2楽章〉は何をさておき、ホルンが朗々と奏でるテーマに尽きます。そこに他の楽器で違った要素が重ね合わさって、さらに多層的となるロマンティックな情景にほろりとさせられますが、楽章の後半では「運命の動機」の暴力的と言うべき音の塊で2度にわたって遮られ、葛藤が続きます。〈第3楽章〉は3拍子のワルツで、一服の清涼剤と言うべきですが、ほの暗さが残って不安感は拭い去ることができません。「運命の動機」は楽章の終わり近くにさりげなく姿をあらわします。〈第4楽章〉は「運命の動機」が堂々とした響きに変貌を遂げて始まります。覆い被さるように音楽がダイナミックに展開され、最後は「運命の動機」が輝かしく鳴り響いて、しっかりと大地を踏み締める行進曲のフィナーレです。

楽器編成

フルート3(ピッコロ持替)、オーボエ2、クラリネット2、バスーン2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン2、バス・トロンボーン、チューバ、ティンパニ、弦楽5部

新型コロナウイルス感染拡大防止対策に関するお願いとお知らせ

●必ず指定されたお席でご鑑賞ください。●ご鑑賞中も、常にマスクをご着用ください。(マウスシールド不可) ●ブラボーなどの声援や、大きな声での会話はお控えください。●途中で退出されますと、ご自身のお席へお戻りいただけない場合があります。●終演時は、分散してのご退場にご協力ください。●客席内は、強制換気システムにより常に外気との入れ替えを行っております。

当センターウェブサイトより、アンケートへの
ご協力をお願いいたします。

右記QRコードを読み取って
公演カレンダーへアクセスしてください。
(公演翌日から5月24日まで)



「兵庫県コロナ追跡システム」をぜひご利用ください。館内掲示のポスターよりQRコードを読み取ってご登録ください。

PACオーケストラの演奏を ご自宅でも!

- Meet-HPAC リサイタルホールから
 - わくわくOnlineオーケストラ教室
- 妖精パックのオーケストラってなぁ〜?

PAC公式YouTubeにて
好評配信中! (視聴無料)

